

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (中国)	◎	都市型ホテル (宿泊担当)	単価の動き	・10月はインバウンドを中心としたレジャー利用の需要が高く、稼働を落とすことなく高単価で推移している。
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・海外からの客が増えつつある。
	○	一般小売店〔印章〕（経営者）	販売量の動き	・涼しくなったためか、客の動きが多少良くなっている。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・抹茶ブームとインバウンド需要の高まりで、売上は増加しているが、先行きの面で心配な問題が起こってきている。
	○	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・ハイブランドジュエリーやブランドバッグの動きが良く、今月は好調である。来月もこの流れが続きそうである。
	○	百貨店（外商担当）	お客様の様子	・金価格と株価の上昇により、富裕層の購買意欲が向上している。
	○	コンビニ（店長）	来客数の動き	・3か月前の7月は、これから夏に向けて人出が増え始める時期であったが、10月は夏が終わり、人の流れが落ち着く傾向にある。しかし、来客数はむしろ増加しており、特にインバウンドが多い。
	○	乗用車販売店（業務担当）	販売量の動き	・メーカーの生産も安定的に進んでおり、販売台数が増えている。
	○	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	来客数の動き	・大阪・関西万博が閉幕し、観光客や修学旅行生が戻ってきている。
	○	その他専門店〔革製品〕（店主）	販売量の動き	・客単価はそれほど高くないものの、販売量は徐々に増加傾向にある。
	○	高級レストラン（事業戦略担当）	来客数の動き	・自治体等が主催する各種イベントへの参加が奏功し、来客数が増えている。
	○	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・秋に入ったためか、インバウンドの客が大幅に増えている。
	○	観光型ホテル（予約担当）	来客数の動き	・行楽シーズン真っただ中で、土曜日は個人客の予約も多く、平日は団体ツアーの集客状況も良いが、単価は低い。
	○	都市型ホテル（宿泊担当）	単価の動き	・秋の行楽シーズンに入り、レジャー目的の客が増加し、2人以上での宿泊利用が増加している。
	○	都市型ホテル（総支配人）	来客数の動き	・宿泊に関しては、9月時点での10月と11月の予想を上回る、8%前後の上積みが見込めている。
	○	都市型ホテル（企画担当）	来客数の動き	・大阪・関西万博の開催の影響で、当県ではインバウンドの減少傾向が続いていたものの、増加傾向にある。
	○	旅行代理店（支店長）	販売量の動き	・秋の繁忙期から年末年始にかけて、受注は徐々に増加傾向にある。前年比130%で推移しており、海外旅行の先行予約も増加してきている。
	○	通信会社（総務担当）	それ以外	・首相交代により、これまで停滞していた施策が前に進んでいく可能性がある。
	○	通信会社（企画・総務担当）	販売量の動き	・個人向けインターネットの新規契約件数が増加している。
	○	通信会社（運用担当）	それ以外	・首相交代による好影響を期待する。
	○	テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・天候の影響によりキャンセルが発生することもあるが、土曜日と休日前のテントサイトは予約が集中する人気ぶりである。
	□	商店街（理事）	お客様の様子	・猛暑から一気に冬へと移り変わり、冬支度に追われる客が慌てて買物をしている様子が見受けられる。何を着ればよいのか分からないといった声も聞かれ、景気よりも気候の変化が購買行動を左右している。
	□	商店街（代表者）	単価の動き	・3か月前と比べ、客の購買意欲が高まっている。

☐	商店街（代表者）	お客様の様子	・景気は依然として低迷しているものの、新首相の就任により、これ以上の悪化は避けられるという声を聞く。
☐	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	単価の動き	・涼しくなってイベントも増えているが、裏通りに面している店舗なので、景気に変化はない。
☐	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・催事やブランド数の強化だけでは不十分で、ハイブランドがそろっていないければ、集客や購入につながらない。高価格帯を求める客と低価格帯を求める客の2極化が激しくなっている。
☐	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・催事によって来客数は増加しても、販売量は変わらない。
☐	百貨店（総務・経理担当）	来客数の動き	・来客数はおおむね前年並みに推移している。
☐	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は依然として横ばいで停滞傾向である。週末や割引日の来客数は増加するものの、平日との差は広がっており、来店頻度の低下が懸念される。商品単価の上昇により売上確保はできているが、買上点数が伸びない。低単価商品は堅調に推移しているが、高単価商品の需要は鈍化している。
☐	スーパー（店長）	販売量の動き	・買上点数が前年比97%で推移している。客の財布のひもは固く、買物籠の中身が増えにくい状況が続いている。広告を出した日は売上が大きく伸びるが、平日が厳しい。
☐	スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数は前年同月比99%の状態が続いているが、値上げの影響により売上は102%となっている。販売点数は前年割れの状況が続いている。
☐	スーパー（店長）	販売量の動き	・売上の前年比は横ばいで推移しており、依然として節約志向が続いている。来客数は微増であるが、販売点数は前年を割っている状況が続いている。
☐	スーパー（販売担当）	販売量の動き	・値上げが続いている影響で、生活必需品以外は販売量が落ちており、前年の売上を下回っている。
☐	スーパー（業務開発担当）	来客数の動き	・来客数は前年並みであるが、販売点数は2%減少しており、低調な状況が続いている。
☐	コンビニ（副地域ブロック長）	来客数の動き	・前年同月に来客数の急速な回復があったものの、現在はその伸びが鈍化し、減少傾向にある。売上も頭打ちの状態となっている。
☐	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・お茶会が開かれるようになったり、着物で出掛ける客も増えていることから、景気が上向いている。
☐	衣料品専門店（代表）	販売量の動き	・物価高が購買を控える原因になっている。
☐	家電量販店（店長）	お客様の様子	・物価上昇が影響しており、客は必要最低限の商品だけを購入する傾向である。
☐	家電量販店（企画担当）	販売量の動き	・季節要因でゲーム機とパソコンの動きは順調であるが、全体の販売量は落ち込んでいる。ただし、単価が上がっているため、3か月前と売上は変わらない状況である。
☐	乗用車販売店（リース担当）	来客数の動き	・店舗ごとの来客数は、増加している店舗もあれば、減少している店舗もあり、当社全体としては来客数がやや減少傾向にある。
☐	乗用車販売店（店長）	来客数の動き	・販売車種が限られてくるため、販売量の減少が見込まれる。
☐	その他専門店〔土産物〕（経営者）	来客数の動き	・9～10月にかけて観光バスの来訪は増加したものの、週末の雨などで来客数は伸びなかった。暑さが長引いたことも一因とみている。
☐	その他専門店〔時計〕（経営者）	販売量の動き	・夏季に比べ、来客数は増加したようであるが、販売にはつながらない。
☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	来客数の動き	・3か月前の7月と大きな違いはない。毎年のように夏が長くなって、特に衣料品の販売が難しくなっている。9～10月に気温が高いと夏物は売れにくく、秋物も動きづらい状況となる。秋物の販売期間が短縮される傾向にある。

□	一般レストラン (経営者)	お客様の様子	・ランチメニューは値上げせず提供しているため、平日の来客数が増え、前年比では110%を超える好調な推移となっている。休日前のディナーに関しては、会社関係の宴会利用はあるものの、早めに終了するケースが多く、夜9時以降の売上につながらず、減少傾向である。節約志向の高まりで、日曜日のランチ、ディナー共にファミリー客が減少している。
□	観光型ホテル (副支配人)	販売量の動き	・前年は周年記念イベントの効果で宿泊数が大きく伸びたが、今年はその反動もあり、前年を大きく下回っている。一方で、昼宴会の利用は前年を上回るペースで増えている。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・日中は通院や買物、観光、出張等での利用客が例年並みに推移している一方で、夜の利用者が相変わらず少なく、伸び悩んでいる。
□	タクシー運転手	来客数の動き	・夜の客数が少ない。天候も不安定で、外出機会が減少している。
□	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・前月、価格改定を実施したが、9月と10月の解約件数はおおむね想定範囲内となり、売上への影響は軽微にとどまった。当社サービスは新規顧客への訴求力は強くないが、既存顧客の継続利用においては安定している。これらの状況を踏まえ、現時点での景気動向は横ばいと判断する。
□	放送通信サービス（総務経理担当）	お客様の様子	・利用料の延滞率、延滞解消率共に大きな動きはない。
□	ゴルフ場（営業担当）	お客様の様子	・予約状況は変わらない。涼しくなってきたので、予約増加が期待できる。
□	競艇場（企画営業担当）	販売量の動き	・一般レースの1日平均売上は安定して推移している。
□	美容室（経営者）	お客様の様子	・いろいろな商品が値上がりしている。来店頻度が低下しており、自分で染髪をするなど売上が減少している。
□	設計事務所	お客様の様子	・予定どおりに進行している案件もある一方で、様子見により一時停止している案件も見受けられる。新規の相談については、継続的に一定数ある。
□	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅や小規模ビルの引き合いが続いているが、建築費の高騰からプロジェクトがなかなか前に進まない。
□	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・収入が増えていない客と高収入の客で2極化している様子である。一定の需要はあるが、全体の伸びが欠けている。
□	住宅販売会社（事業推進担当）	お客様の様子	・販売進捗に若干の波はあるが、購入に必要な年収水準が高くなっているため、購入したいが予算的に購入できない、かなり無理をして購入を検討するといった状況が続いている。
□	住宅販売会社（住宅設計担当）	販売量の動き	・今月は販売量が芳しくないが、例年どおりと考えられる。政府による補助金の有無により販売量に波が生じるなか、谷間の時期ともいえる。
▲	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	単価の動き	・低価格商品がよく売れており、節約志向の客が増えている。
▲	百貨店（営業担当）	単価の動き	・値上げによる単価上昇が影響し、客の買い控えが見受けられる。
▲	百貨店（売場担当）	お客様の様子	・食品を中心とした生活必需品の価格上昇が、徐々に影響し始めている。価格帯別では中間層の動きが鈍く、高価格帯と低価格帯の2極化となっている。固定客の管理が不十分な売場では苦戦を強いられる。
▲	スーパー（店長）	販売量の動き	・1品単価が上昇しており、高い牛肉や果実等の販売量が低下している。
▲	スーパー（財務担当）	販売量の動き	・来客数の増加と値上げによる1品単価の上昇により、売上は前年を上回る状況が続いている。一方で、野菜や米の価格高騰が落ち着き、1人当たりの買上点数と客単価が前年を下回っている。
▲	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・1日を通して来客数が前年より4～5%ほど減少しており、チェーン全体のなかでも当県が最も苦戦している。

	▲	コンビニ（支店長）	来客数の動き	・米国の関税引上げ以降、当地にある大手自動車メーカーの工場では生産台数が減少し、それに伴い労働人口も減少傾向にある。この影響は店舗の来客数にも顕著に表れている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・来客数が多い日と少ない日の差が大きく、気が抜けない。
	▲	家電量販店（副店長）	販売量の動き	・パソコンの現行OSのサポート終了に伴い、パソコンの販売は絶好調だが、テレビや冷蔵庫の落ち込みが激しく、以前より売上が低下している。
	▲	乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・客は少額の支出に対しても慎重になっている。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・9月の決算以降、客の動きは鈍化している。例年どおりの動きではあるが、今年は特に低迷感が強い。年末に向けて徐々に上向いてくることが予想されるが、現在は踏ん張り時である。
	▲	乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・10月の販売量は前年比70%と大変厳しい状況となっている。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・円安で輸入品の値段が上がり、客足が鈍っている。販売の中心が、1～2段階下の価格帯の商品へ移っている。
	▲	その他専門店〔宝石店〕（店員）	来客数の動き	・3か月前と比較して来客数が1割減少している。
	▲	一般レストラン（店長）	来客数の動き	・好調だった予約が減少傾向にあり、来客数も昼夜共に減っている状況である。客との会話でも来店控えの傾向がうかがえる。10月からの各種値上げが影響していると考えられる。
	▲	タクシー会社（営業所長）	来客数の動き	・ハイヤーなどの観光業務については、前年とほぼ同水準であるが、普通車タクシーの稼働状況は、日中、夜間共に動きが鈍い。配車回数は微減で、単価も下がっているように見受けられる。
	▲	通信会社（営業担当）	お客様の様子	・物価高騰による月次支出の切り詰めが一層強まっており、月額サービス関連の解約が増加傾向にある。
	▲	通信会社（広報担当）	お客様の様子	・客は利便性よりも価格を優先する傾向が強まっている。
	×	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月に入ってから極端に来客数が減っている。店舗によっては売上が前年同月比で30%も減少している。
	×	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・新首相の就任に伴い、景気回復への期待が高まっていたが、株価が乱高下しており、景気が好転することはないとみられる。
	×	美容室（経営者）	単価の動き	・客に新しいサービスや商品を勧めるが、売上に繋がらない。客の節約志向は強まっている。
企業 動向 関連 (中国)	◎	食料品製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・9月と比べ、大幅に受注が伸びている。
	◎	輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・多忙な状況が続いている。
	○	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節の移ろいがみられるようになり、季節商材の販売量が増加している。市場価格の上昇が続くなかでも、健闘がみられる。
	○	繊維工業（財務担当）	受注価格や販売価格の動き	・猛暑が落ち着き、秋の3連休で各地のイベントが開催され、人の動きも活発になっている。物価上昇のなかであるが、購買行動は鈍化していない。
	○	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・一時保留となっていた大口案件の生産を再開した。一時的ではあるが、多忙な状況となっている。
	○	輸送業	受注価格や販売価格の動き	・受注が増えている。
	○	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・DXやAI等の分野の引き合いが増加している。
	○	金融業（副支店長）	取引先の様子	・地場建設業界における公共工事入札量が増加しており、受注量は安定している。
	□	化学工業（総務担当）	競争相手の様子	・米国の関税政策による影響について、取引先は今後の動向に変化が生じる可能性がある。

	☐	鉄鋼業（総務担当）	取引先の様子	・荷動きに大きな変化はなく、依然として低調のままである。
	☐	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注状況は3か月前と変わっておらず、定時工数以上の受注を確保している。
	☐	一般機械器具製造業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・米国の関税の影響で販売面に影響は出ているものの、他地域への販売拡大や生産拠点の見直しを実施することにより、変動が最小限となる対策が進んでいる。
	☐	電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・取引先の設備投資の動きが鈍く、産業機械向けの機械装置や電子部品は減少傾向にある。また、原材料も値上げが続いているものの、同業他社との兼ね合い等により、自社で吸収せざるを得ない部分もあり、利益圧迫となっている。
	☐	建設業（経営者）	取引先の様子	・企業の設備投資は様子見状態が続いている。
	☐	建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・予定物件は十分にあり、今後は繁忙になる。現時点では案件の切れ目が重なり、一時的に技術職が待機している状況である。
	☐	輸送業（企画担当）	取引先の様子	・現米国政権になってから地球温暖化対策に関する国際的な動向、特に我が国の政策の方向性が不明瞭になっている。2050年を目標とした温暖化対策に関連するビジネス展開がみえなくなってきた。
	☐	輸送業（業務推進担当）	取引先の様子	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
	☐	輸送業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、顧客ヒヤリング時に大きな変化はなく、動向は安定して推移している。
	☐	金融業（経済産業調査担当）	それ以外	・物価上昇が続くなか、個人消費は回復力が乏しい展開が続いている。
	☐	会計事務所（経営者）	受注量や販売量の動き	・設備投資に関するコンサルティング案件の受注は伸び悩んでいる。コスト上昇や人件費負担の増加への対応が優先されている状況である。
	▲	農林水産業（従業員）	取引先の様子	・売上が伸び悩んでいるとの話を耳にすることが増えている。
	▲	建設業	受注価格や販売価格の動き	・資材価格や労務費の高騰、食料品等の価格上昇が続いており、賃金上昇が追い付いていない。
	▲	通信業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・クラウド事業を展開する企業においては、米国大手半導体企業による仮想化ソフトウェア企業の買収の影響が徐々に出てきており、クラウド関連の価格改定などにより、販売価格と販売数量が減少している。
	▲	不動産業（総務担当）	それ以外	・前月と比べ、来客数は約3%、申込件数は約5%減少となっている。
	×	—	—	—
雇用 関連 (中国)	◎	—	—	—
	○	人材派遣会社（事業部長）	求人数の動き	・米国の関税の影響が明確になったことで、これまで慎重だった企業の採用意欲が徐々に高まりつつある。
	○	民間職業紹介機関（職員）	求職者数の動き	・現経営者を中心とした体制を継続しつつ、将来的な世代交代を見据え、体制強化に向けた人材確保に注力する企業が複数みられる。
	☐	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・3か月前と比べ、求人数はやや上昇傾向ではあるが、引き続き求職者の動きが鈍く、登録者数は伸び悩んでいる。すぐに働きたいわけではなく、条件の良い職場があれば転職を検討する状況が目立っており、1～2か月先を視野に入れ動いている様子である。
	☐	人材派遣会社（求職者対応）	求職者数の動き	・3か月前と同じ割合で応募があり、横ばいで推移している。
	☐	人材派遣会社（経営企画担当）	求職者数の動き	・人手不足を背景に、企業が派遣スタッフの直接雇用を進めている。当社としては、紹介手数料の発生により短期的には業績にプラスとなるものの、派遣スタッフを確保し続ける必要があり、中長期的には人材供給力の維持が課題となっている。
	☐	求人情報誌製作会社（総務担当）	それ以外	・年末に向けて、飲食店による忘年会関連の広告展開は増加傾向にあるものの、一時的な傾向と考えられ、3か月前と比べて大きな動きはない。

□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	採用者数の動き	・2026年4月と2027年4月の採用予定人数は、3か月前から変化はない。
□	求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・新卒採用に関しては、現時点で内定取得者が全体の9割を超えている状況である。就職活動を継続する学生は少なく、落ち着いた状況である。採用予定者数に達していない企業は、学生からのエントリーもほぼなく、採用予定者数未達のまま採用活動を終えざるを得ない。就業環境に関する希望としては、フルリモート勤務を望む学生は全体の1割程度にとどまり、大多数は対面での出社を希望している。
□	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率は前月と変わらず1.12倍となっている。
□	職業安定所（事業所担当）	求人数の動き	・有効求人数は、前年比で減少傾向にあるが、3か月前と比べて求人数が大きく減少しているわけではない。
□	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・企業の採用意欲はあるが、景気の状況に変化がない。
□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	求人数の動き	・新卒採用活動が一段落し、求人数の増加に鈍化傾向がみられる。
▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・物価高騰や政治的な不安定要因により、先行きの不透明感が拭えないなか、10月からの食料品等の値上げによって、消費が鈍っている。地域の大手スーパーによれば、来客数及び購買点数がそれぞれ0.02%減少しているとの報告がある。
▲	職業安定所（事業所部門）	求人数の動き	・最低賃金の引上げに伴う対応について憂慮している中小企業が多数ある。最低賃金の引上げは全般的に良いことであるが、体力のない事業所にとっては負担が大きく、対応が難しい状況も見受けられる。
▲	民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	求職者数の動き	・人材紹介において、求職者のエントリー件数が3か月前の89%となっている。例年と比べ、問合せの減少時期が早まっている傾向が見受けられる。
×	—	—	—